

# バロックの哲人の普遍的精神の 全容を精選・翻訳した 本邦初、世界に類のない 本格的著作集

つまり、時間的、場所的に遠くはなれているものを、現在の中に認めることができることになろう。「スベテが共ニ呼吸ラシテイル」とヒポクラテスは言った。しかし、魂が自分自身のうちに読み取ることができるとは、そこに判明に表現されているものだけである。魂は自分の髪を一挙にすっかり開いてみることはできない。その髪は無限に及んでいるからである。

六二―そこで、創造されたモノドは、いずれも宇宙全体を表現しているが、そのモノドのために特別にふり当てられていて、そのモノドを自分のエンテレケイアにしている物体「身体」をより判明に表象する。充実体の中ではすべての物質が結び合っているから、この物体「身体」は宇宙全体を表現するが、魂もまた特別に自分に属している物体「身体」を表現することによって、宇宙全体を表現するのである。(四〇〇節)

120 ―原文は、*omnino rebus*。これは *educator* の覚え違いと註釈家たちは言う。「新語」序文では、この言葉を *tout est constant*（すべては呼吸を共にしている）とみずから訳している。以上の叙述は、「モノドは過去を荷い、未来を孕んでいる」ことを想起させる。物体界もある種の歴史的な表現世界なのである。  
121 ―複合体、あるいは物理的実体は、本文文では生物学的モデルによって、有機体とか生物として捉えられている。「原理」三節によれば、動物のような複合体は、その統一の原理である中心的モノドとそれを取り巻き身体を構成するモノドとの相互表現という仕方で一応説明され、次節で、モノドは身体と一緒になつて生きた実体をつくる、とある。同論文において「エンテレケイア」なる言葉は使われていない。ところで、本文文では、生物の説明に質料―形相主義をとり、実体は質料と形相とからなる合体である、とす。つまり形相にあたるいわゆる支配的モノドと、その質料あるいは物体「身体」とが合一したものが、われわれが生きている自然的（形而上学的ならざる）世界を構成しているのである。理性的精神たる人間も、身体をはなれては、この自然界にはありえない。すべての物質を超えているのは、神のみであり、物質から解放された被造物は、同時に普遍的連関から脱落し、いわば一般的法則からの逃亡者であると言われている。(2)生命の原理と形成的自然につい

## 【特色】

- 監修・翻訳陣には世界的に名高いライプニッツ学の泰斗、科学史家、数学史家、宗教学者、哲学者が結集。
- 科学・哲学・数学にわたる有機的な思想の精髓を編集。
- 今日の情報社会を先取りする発想や発明の起源となった主要著作を収録。
- ラテン語、フランス語、ドイツ語にわたる論考を、手稿を含めテキストクリティークのうえに翻訳。
- 訳文は正確、平明を旨とし、充実した訳注・解説を付して、思想的背景や後世への寄与を明かす。

## 第1期 全巻構成

【第8回配本】2019年11月予定

### 1 論理学

澤口昭幸 Ⅱ 訳

本体10000円＋税 416頁＋手稿8頁

ライプニッツ生涯の企画書『結合法論』にはじまり、  
普通学構想の基盤となる記号論理学の形成過程を追う。

▼ 結合法論抄／普遍的記号法の原理／普遍的計算の試論／概念と真理の解析についての一般的研究  
論理形式の作図による証明／理性の数学／三段論法の形式の数学的決定／「計算」／幾何学的記号法

【第6回配本】2019年7月予定

### 2 数学論・数学

原亨吉 Ⅱ 佐々木力 Ⅲ 浦伸夫 Ⅳ 馬場郁 Ⅴ 斎藤憲 Ⅵ 安藤正人 Ⅶ 倉田隆 Ⅷ 解説  
本体12000円＋税 400頁＋手稿8頁

『普通数学』の思想的背景から微積分学の創始、  
ホイヘンやニートンとの交渉まで、時代の最先端を切り拓いた  
数学精神のダイナミズムを編む。

数学論 ▼ 普遍的総合と普遍的解析、すなわち発見と判断の技法について／普通数学／数学の形而上学的基础

数学 ▼ 「ガロスへの手紙」無限算へのアプローチ／「ホイヘンスへの手紙」算術的求積／重心論による求積解析1：2／求積解析第2部／3個の実根を持つ立方方程式の解法：／逆接線法／オルデンバーグへの手紙／接線の微分算／誤謬が避けられ：数列が容易に見出される、新しい解析の実例／有理数によって表わされた、外接正方形に対する円の真の比について／分数式にも無理式にも煩わされない極大・極小ならびに接線を求める新しい方法：／接触角と接合角の性質：これらの角についての新考察／深奥な幾何学ならびに不可分者と無限の解析について／ホイヘンスの手紙1：2／柔軟なものが自身の重さによって描く曲線について：／ニートンへの手紙

【第8回配本】2019年5月予定

### 3 数学・自然学

原亨吉 Ⅰ 横山雅彦 Ⅱ 三浦伸夫 Ⅲ 馬場郁 Ⅳ 倉田隆 Ⅴ 西敏尚 Ⅵ 長島秀男 Ⅶ 訳  
本体17000円＋税 624頁＋手稿8頁

「位置解析について」「すべての数を1と0によって  
表わす驚くべき表記法…」などの数学論考、  
天体論や光学などの自然学論考を収載。

数学 ▼ 無限級数による：超越的な問題にも拡張される実用幾何学についての補説／計量幾何学についての補遺：／位置解析について／微分算の新しい適用：／向背心等速曲線の問題の正しい作図：／すべての数を1と0によって表わす驚くべき表記法：／ヨハンベルヌイへの手紙／代数学の新機軸／真の幾何学的解析／数についての新しい学問試論／等差数列をなす数の冪乗数として表わされる数列：／和と求積に関する無限の学問における解析新例／冪と微分の比較における代数計算と無限小計算の注目すべき対応：／スローンへの手紙／

ユークリッドの基礎について／趣意書／微分算の歴史と起源／演算規則を用いた解析計算の要点① 諸方程式から文字を除くこと：／

自然学 ▼ 自然法則に関するデカルトおよび他の学者たちの顕著な誤謬についての簡潔な証明／天体運動の原因についての試論／天体運動の原因についての試論の解説／運動の諸法則に関する動力学試論／物体の力と相互作用に関する：力学提要／光学、反射光学、屈折光学の唯の原理

【第2回配本】2018年11月

### 4 認識論 人間知性新論 上

谷川多佳子 Ⅰ 福島清紀 Ⅱ 岡部英男 Ⅲ 訳  
本体8500円＋税 344頁＋手稿8頁 ISBN978-4-87502-498-9

イギリス経験論の支柱ジム・ロックの『人間知性新論』を精読し、  
生得観念・無意識・微小表象などをもってつづさに反論を開始する。

▼ 第1部 生得的概念について／第2部 観念について

【第2回配本】2018年11月

### 5 認識論 人間知性新論 下

谷川多佳子 Ⅰ 福島清紀 Ⅱ 岡部英男 Ⅲ 訳  
本体9500円＋税 392頁＋手稿8頁 ISBN978-4-87502-499-6

ロックの代弁者フィラートに対するライプニッツの  
代弁者テオフィルの反論は、認識論的確証をめぐる、  
いよいよ佳境に入る。

▼ 第3部 言葉について／第4部 認識について

【第4回配本】2019年3月予定

### 6 宗教哲学 井神論 上

佐々木能章 Ⅱ 訳  
本体8200円＋税 352頁＋手稿8頁

ライプニッツの聡明な弟子にして庇護者でもあった  
プロイセン王妃、ゾフィー・シャルロッテと交わした  
議論をまとめた王妃追想の書。

▼ 緒論 信仰と理性の一致について／本論 神の正義、人間の自由、  
悪の起源について 第1部・第2部

【第4回配本】2019年3月予定

### 7 宗教哲学 井神論 下

佐々木能章 Ⅱ 訳  
本体8200円＋税 356頁＋手稿8頁

ユークラーとしてオランダ亡命を余儀なくされた  
思想家にして編集者ヒェルベルの「田舎人の問いへの答え」  
『歴史批評辞典』を批判的に検討する。

▼ 本論 神の正義、人間の自由、悪の起源について 第3部／  
第1附論 三段論法形式での論争要約／

【組見本（原寸）  
第9巻 後期哲学「モノドロジー」より

● 本文 Ⅱ 9ホ1段組、訳注 Ⅵ 6ホ

● A5判上製／カバー装

第二附論 ホップズ論／第三附論 キング「悪の起源」考／  
神の大義（別冊ラテン語文）

【第1回配本】2019年9月

### 8 前期哲学

西谷裕作 Ⅰ 竹田篤司 Ⅱ 米山優 Ⅲ 佐々木能章 Ⅳ 酒井潔 Ⅴ 訳  
本体9000円＋税 448頁＋手稿8頁 ISBN978-4-87502-496-5

「表出」の哲学を開示した『形而上学叙説』、  
「アルノーとの往復書簡」を軸に、1702年までの小品を収録。

▼ 対話 観念とは何か／認識、真理、観念についての省察／自然の  
法則の説明原理：マルブランシュ師の返答への回答／二四の命題／實在  
の現象を想像的現象から区別する仕方について／実体の本性と実体  
相互の交渉ならびに心身の結合についての新たな説／事物の根本的  
起源について／感覚と物質とから独立なものについて―プロイセン王  
妃ゾフィー・シャルロッテへの手紙／唯一の普遍的精神の説についての考察  
／形而上学叙説／アルノーとの往復書簡

【第7回配本】2019年9月予定

### 9 後期哲学

西谷裕作 Ⅰ 米山優 Ⅱ 佐々木能章 Ⅲ 訳  
本体9500円＋税 456頁＋手稿8頁

『第3回配本』2019年10月予定

### 10 中国学・地質学・普遍学

山下正男 Ⅰ 谷本勉 Ⅱ 小林道夫 Ⅲ 松田毅 Ⅳ 訳  
本体9500円＋税 336頁＋手稿8頁 ISBN978-4-87502-501-6

二進法と易の陰陽図の類似を論じた小編など中国学三編、  
ハツ鉱山開発の体験を背景にヴェルミン家史の前章として  
地質時代を記した「プロトガイア」、  
生涯追いつ続けた普遍学論考七編を収載。

中国学 ▼ 0と1の数字だけを使用する二進法算術の解説、ならびに  
この算術の効用と中国古代から伝わる伏羲の図の解説に対するこの算  
術の貢献について／中国自然神学論／最新中国情報

地質学 ▼ プロトガイア  
普遍学 ▼ 百科全書あるいは普遍学のための予備知識／普遍学の基  
礎と範例／諸学問を進展させるための格率／確実性の方法と発見術  
に関する序論／普遍的記号法―その起源と価値／普遍的記号法―  
その論理的一般原理